

明治31年頃の尾道駅前

1898（明治31）年、尾道市は広島県内2番目に市制を施行する。尾道がいかに商都として栄えていたかがうかがえる。この写真はその頃の尾道駅前でも多くの荷車が見える。



(写真提供；尾道商工会議所)

明治42年の電話帳

1876（明治9）年、グラハム・ベルによって電話機が発明され、2年後の1878（明治11）年には国産第1号電話機が完成。1890（明治23）年には東京一横浜で営業が開始された。尾道では1906（明治39）年に電話が開通する。



(尾道商工会議所所蔵)

これは1909（明治42）年の電話帳で、加入数は尾道局333、福山局160、糸崎局26。ちなみに、尾道商業会議所の電話番号は200番であった。

明治時代の尾道案内

尾道市街図を利用した広告、尾道案内である。よく見ると、鉄道の時刻表もあり、尾道は物流の拠点でもあったことがうかがえる。



(個人所蔵)

明治末年の塩田（向島町富浜）

塩田は、元禄年間より昭和初期まで営業が続き、塩は尾道の主産物の一つであった。



(写真提供；尾道商工会議所)

明治時代の造船所

尾道は良港の港町であるとともに、造船の町でもある。

すでに明治時代より大小の造船所が尾道周辺にできていった。



(写真提供；尾道商工会議所)

明治末年の荒神堂浜

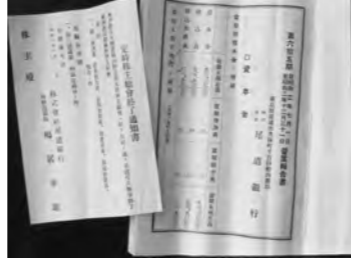
多くの帆船が港に停泊している。向側には、大きな白壁の倉が八棟あったので、八軒倉の名が残っており、商都尾道の繁栄がうかがえる。



(写真提供；尾道商工会議所)

尾道銀行第65期決算報告書

1895（明治28）年、尾道土着の銀行として尾道貯蓄銀行が開設され、1922（大正11）年に尾道銀行と改名した。のち、他行と合併し、広島銀行へと発展していった。



(尾道商工会議所所蔵)

尾道鉄道開通式の花電車

1925（大正14）年、西尾道一石畦間、翌年石畦一市間が開業。

更に1933（昭和8）年、尾道一西尾道間が開業し、山陽本線に接続した。



(写真提供；尾道商工会議所)

●●「今昔物語」畳表問屋のなごり●●

尾道は江戸時代から備後表が重要な産品であり、長江の福善寺下には土蔵群や問屋が軒を連ねていた。今はそのたたずまいを見るにとどまるのみである。

(写真提供；NPO法人尾道文化財研究所)

尾道商業会議所記念館〈第1回企画展示解説〉

(2006年3月4日～7月)

テーマ「商都尾道のシンボル 尾道商業会議所」

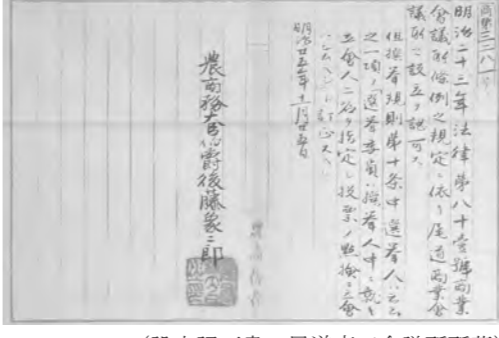
1890（明治23）年、商業会議所条例が制定され、商都尾道においても2年後の1892（明治25）年7月に尾道商業会議所設立発起人会が尾道の久保町にあった、第六十六国立銀行内で開催された。発起人は天野嘉四郎はじめ14名。同年11月25日に尾道商業会議所の設立が農商務大臣の後藤象二郎によって認可される。

当時多くの商業会議所は県庁所在地に設立され、県庁所在地以外には尾道などが例外的に設立が認可されている。尾道は室町時代から対明貿易、その後北前船の寄港地、さらに石見銀山の銀積出港として重要な港町であった。港町としての歴史は古く、1169（嘉応元）年に備後国大田庄の年貢積出の公認港となったことから、歴史を刻んでいく。

このように歴史的な発展をとげた尾道は、商都の町としてその名声を全国にとどろかせた。尾道の豪商により設立された第六十六国立銀行（現広島銀行）、住友家の重役会議にて銀行設立が決定（現三井住友銀行）したのも尾道である。

また1888（明治21）年には、全国14番目となる尾道商業学校（現在の広島県立尾道商業高等学校）も設立されており、尾道の商業力、経済力は全国的にも有名となった。そのシンボリック的存在が尾道商業会議所であった。

その後、会議所は、法律の変遷に沿って名称を尾道商工会議所と変え今日に至っている。



(設立認可書 尾道商工会議所所蔵)

商業会議所の役割

1599年にフランスのマルセイユ港で世界最初に商業会議所が設立されたと言われている。

世界における商業会議所はフランスなどヨーロッパにおける国の法律によって認可され、選挙によって選ばれた議員によって運営されたものと、イギリスやアメリカのように商工業者が自らの必要と利益のために設立し、任意会員による自治が行われていた2種類が存在していた。

一方、日本においては江戸時代に結ばれた不平等条約改正交渉に関し、商工業者の世論を代表する機関として、伊藤博文・大隈重信らがイギリス・アメリカの方式を模倣した商法会議所（「商業をする」ことを「商法をする」と言った）の設立を渋沢栄一や福地源一郎に要請している。勿論、条約改正のみならず、内務省は勸業政策奨励のために設置の必要性を説いている。

日本の商業会議所は1878（明治11）年3月に東京商法会議所が設立されたことに遡る。設立当初の目的は商工業の諸問題を論議し、政府に商工業発展に関することを進言する団体であった。同年8月には株仲間廃止による流通秩序改善を目的に大阪商法会議所も設立され、その後商工会へ移行したものもあった。

1890（明治23）年に商業会議所条例が公布され、法的機関としての商業会議所が日本に誕生した。この条例の第4条に「会議所の事務権限は、商業の発達を図るため必要な方策の協議、商業上の事項につき官公庁への意見開陳および諮問応答、商業に関する諸営物の管理、仲立人資格等の審査、商業に関する紛争の仲裁等」とその役割が明記された。

明治18年頃の尾道

1884（明治17）年に大阪商船株式会社が創立し、大阪一広島間の汽船寄港地として尾道が選ばれ、北前船に代わり、再び尾道が活気付く。



(写真提供；尾道商工会議所)

明治24年の山陽鉄道

1891（明治24）年、山陽鉄道 尾道一福山間が開通。

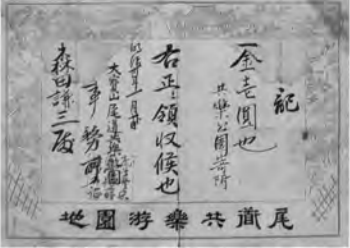
前年の1890（明治23）年には商業会議所条例が公布され、尾道では翌々年の1892（明治25）年に商業会議所設立発起人会が開催される。



(写真提供；尾道商工会議所)

共楽園（現千光寺公園） 寄付金領収書

1894（明治27）年、三木半左衛門によって千光寺山に千光寺公園の前身である共楽園がつけられた。すでに尾道商業会議所は設立されており、経済界からも多額の寄附が行われたようである。これはその整備費の寄附金領収書である。



(個人所有)

元住友銀行

1895（明治28）年、住友家の重役会が尾道で開催され、住友銀行設立を決定。本店は同年9月に設立。尾道支店は11月に開業を始める。



明治31年頃の第六十六国立銀行

1878（明治11）年、現在の広島銀行へと発展した第六十六国立銀行が尾道で開業した。尾道商業会議所設立会議は、この銀行内で行われた。

写真の建物は、現在の「おのみち歴史博物館」の南側隣地にあった。



(写真提供；尾道商工会議所)